

発達が気になる子のための  
ガイドブック

徳島県発達障害者支援センター

# ● ● ● 目次 ● ● ●

はじめに .....	1
1 発達障害とは .....	2
2 広汎性発達障害 .....	
(1) 自閉症 .....	4
(2) 高機能自閉症とアスペルガー症候群 .....	5
3 ADHD (注意欠陥多動性障害) .....	6
4 LD (学習障害) .....	7
5 かかわりのヒント .....	8

## 資 料

1 福祉制度・療育手帳 .....	10
2 療育機関・親の会 .....	12
3 相談機関 .....	16
4 医療機関 .....	17



## はじめに

このガイドブックは、成長や発達に気がある子どもさんをお持ちの保護者の方や関係者の方々に「支援のヒント」としてご利用いただくことを目的に作成したものです。

発達障害の人たちは、脳の働き方の違いによって、ものごとのとらえかた・理解の仕方・処理の仕方が違うといわれています。

気持ちや状況の表現がうまくできなくてトラブルにつながってしまったり、誤解されたりすることもあり、たとえ知的に問題がなくても育ちにくさや生きにくさを抱えている場合があります。

しかし、早期対応や適切な支援があれば、解決の糸口が見つかったり、育ちにくさや生きにくさが軽減します。

この冊子が多くの保護者や関係者の方々にご活用いただければ幸いです。

平成20年3月

徳島県発達障害者支援センター



# 1 発達障害とは

## 発達障害者支援法 (平成17年4月施行)

### 発達障害の定義

「発達障害とは自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。」

### それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

#### 自閉症

#### 広汎性発達障害

#### アスペルガー症候群

#### 注意欠陥多動性障害 ADHD

- 不注意 (集中できない)
- 多動・多弁 (じっとしてられない)
- 衝動的に行動する (考えるよりも先に動く)

#### 学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用 (言語発達に比べて)



## 広汎性発達障害とは

広義の意味での自閉症です。

1. 自閉症
2. アスペルガー症候群
3. 非定型型自閉症
4. 小児期崩壊性障害
5. レット症候群           などが含まれます。

それぞれ国際的な診断基準（DSM-IV・ICD-10）が示されており、それに基づいて医師が診断を行います。

定型発達の子ども達の中にも、発達の過程で発達障害と同様の症状が見られることがあります。「症状が当てはまれば＝発達障害」と断言できるものではありません。気がかりな場合は、相談機関・専門機関に相談しましょう。

## 自閉症スペクトラム

という考え方（spectrum～自閉症の一連の範囲～）

自閉症とは、社会的相互関係障害・コミュニケーション障害・常同、反復行動の3つの特徴を併せ持つ単一の疾患だと考えられてきました。

しかし、近年、自閉症は連続、類似しており、社会的相互関係、コミュニケーション、想像力の3領域の能力に欠如が認められる症候群の一連が、発達障害児群の中に存在する事を見だし、それが自閉症スペクトラムと呼ばれるようになりました。

知的障害を伴う自閉症も、アスペルガー障害に代表されるような広汎性発達障害も、連続体であるという概念です。



## 2 広汎性発達障害

### (1) 自閉症

自閉症とは、3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されております。

#### ☆特徴（よく見られる様子）

##### 社会性の障害

- ★人への関心が乏しい
- ★視線が合いにくい
- ★人の気持ちを理解することが苦手
- ★喜怒哀楽の表現が苦手
- ★抱っこされたり、体にさわられることが苦手
- ★ルールに従って遊ぶことが苦手

##### 想像力の障害とそれに基づくこだわり行動

- ★ごっこ遊びが苦手
- ★興味の範囲がせまい
- ★特定の物を持つことに執着する
- ★ミニカーの車輪をグルグルまわしたり物を並べたりする
- ★道順や順序・日課の変更に弱い・抵抗がある
- ★ものの臭いをかぐ
- ★感触を楽しむ
- ★くるくるまわる
- ★体をゆする

##### コミュニケーションの障害

- ★喃語（なんご）・ジェスチャー・指さし等の発達の遅れ
- ★ことばの遅れ
- ★ことばはあるが会話がうまく成り立たない
- ★オウム返しが多い
- ★呼んでも振り向かない
- ★指示が理解できない
- ★場にあったことばの使い方ができない
- ★場の空気・人の表情を読むことができない

##### 感覚の違い

例えば

- ★聴覚 人混みのザワザワした声・運動会のピストルなどに過敏に反応する
- ★視覚 特定のマーク・ロゴにこだわる・過剰にまぶしいなど
- ★味覚 偏食などにつながる。特定の物しか食べないこともある。
- ★嗅覚 特定の臭いに過敏に反応する。
- ★痛覚 過剰に感じたり、逆に無頓着だったりする。

## (2) 高機能自閉症とアスペルガー症候群

自閉症の特徴を持ちながら、知的な遅れを伴わないものを高機能自閉症といいます。

また、自閉症で知的な遅れを伴わないもののうち、ことばの遅れの伴わないものをアスペルガー症候群といいます。

基本的な特徴は自閉症と同じです。

### ☆特徴（よく見られる様子）

#### 他の人との社会的関係が持ちにくい

- ★相手の気持ちを読み取ったり自分の考えを相手に伝えたりすることが苦手
- ★同時に2つ以上のことをするのが苦手
  - 何かに夢中になっていると返事ができないなど
- ★暗黙のルールがわからない
  - 校則を守らない子は皆悪いといちいち先生に言いつけたり、「あなた太っているね」など思ったことをそのまま言ってしまうなど
- ★相手によって振る舞いを変えることができない
  - 例えば校長先生にも「校長先生、こっちへ来なさい」と命令口調で指示する

#### コミュニケーションがとりにくい

- ★場にそぐわない丁寧語や、逆に難しいことばでしゃべる
- ★相手の微妙な感情のひだが読み取れない
  - 相手が親近感をもっているのか、怒っているのか、冷やかしているのかなどが読み取れない
- ★冗談や比喩が理解できない
  - 例えば「寄り道しないでまっすぐ帰りなさい」と言われて「曲がらないと帰れないよ」と言ったり、「おまえは川で拾ったのよ」と言われて驚いて役場に確認に行くなど
- ★曖昧なことばはわかりにくい
  - 「寒い時はコートを着なさい」←「何度以下が寒い時？」と尋ねる

#### 興味や関心が狭く、特定のものへのこだわりが見られる

- ★ごっこ遊びやふり遊びがすくない
- ★順序や時間を守ることへのこだわり
- ★真面目すぎて融通がきかない



### 3 ADHD（注意欠陥多動性障害）

#### ☆特徴

自分をコントロールする力が弱く、それらが行動面の障害としてあらわれたものです。7歳以前に現れ、その状態が継続しているものをいいます。

具体的には

「不注意（注意力・集中力に欠ける）」

「多動性（じっとしてられない・喋りすぎる）」

「衝動性（人への暴力・出し抜けに何かをしてしまう）」

などの症状がみられます。

中枢神経の何らかによる機能不全と推定されており、通常は3つの症状が絡み合って出てきますが、「不注意」だけ「多動」だけのように1つの症状だけであることもあります。

いわゆる本人のなまけとか、能力が劣っているとか、親のしつけの問題・家庭の事情から起こるものではありません。

例えば

- ★人なつっこく、すぐに人と仲良くなれるが、遊ぶ約束をうっかり忘れる。
- ★借りた物をきちんと返せない。
- ★授業中、席についてられない。
- ★自分の言いたいことだけ言って相手の話を聞けない。
- ★行動上の失敗からよく先生に叱られる。
- ★叱られた時は「また失敗した」と思うのですが、何が悪かったかわからないため、同じ失敗を繰り返して悩んでしまうこともあります。

#### ☆ADHDの3つのタイプ

##### （1）混合タイプ

不注意、多動性、衝動性のいずれも持っています。

##### （2）注意欠陥タイプ

多動性、衝動性は目立たず、不注意の特徴が目立つタイプです。

ADHDは男子に多いと言われていますが、このタイプは女子に多く見られます。また、このタイプは多動・衝動性がないので周囲からは気づかれにくいです。

##### （3）多動・衝動性タイプ

不注意の特徴は目立たず、多動・衝動の特徴が目立つタイプで、小学校低学年に多いです。このタイプは、後に不注意が目立ち始め、年長になり混合タイプに移行するものも多いです。



\* ADHD（Attention-Deficit Hyperactivity Disorder の頭文字）

## 4 LD (学習障害)

### ☆特徴

知的障害はありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す障害です。

知的発達に明確な遅れは見られず、学習に支障をきたすような大きな医学的な疾患も無く、本人に取り組む姿勢や環境にも問題がないにもかかわらず、期待されるより遥かに低い学習到達度を示してしまうようなものをいいます。

原因としては中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されています。

#### ★聞くこと

- ◎がやがやとした場面だと音がすべて同じ大きさに聞こえ、先生の声だけを聞き分けることができなかつたり、集団での話し合いに参加できにくいです。
- ◎集団内で言葉による指示や注意が理解できません。

#### ★話すこと

- ◎言おうとすることは出てこないことがあります。
- ◎ちょうど良い速さで話すことが難しいです。
- ◎思いつくままに話し、順序や意味がわかるように話せません。

#### ★読むこと

- ◎文字や行を飛ばして読むことが多いです。
- ◎形の似た字を間違えて読んでしまいます。
- ◎文章や話のおおまかな意味を読みとることができません。
- ◎音読がうまくできません。

#### ★書くこと

- ◎枠やマスの中に文字がうまく書けません。
- ◎形の似た字を間違えて書いてしまいます。
- ◎鏡に映したような字を書いてしまいます。
- ◎小さく書く「つ」「や」「ゆ」「よ」の入ったことばが正しく書けません。

#### ★計算すること

- ◎やさしい足し算、引き算でも指を使わないとできません。
- ◎繰り上がり・繰り下がりの計算ができません。
- ◎数字の桁がそろえられません。

#### ★推論すること

- ◎（理科の実験の前に）仮説を立てて考えることができません。
- ◎時間割などの表の意味がわかりません。
- ◎時間の流れやカレンダーの意味が理解できにくいです。

\* LD (Learning Disabilities の頭文字)

## 2 かかわりのポイント

どの子どもどの人も、支援を必要としている場所・事柄・タイミングは同じではありません。

診断がある無しよりも、その子・その人に必要かどうかで参考にしてみてください。特別なことではありません。

少しの工夫で理解が進んだり、わかりやすくなったりするきっかけになるかもしれません。発達障害と診断がつかなくても、誰にでも必要な人に使えます。

ここでは、具体的な支援の例を挙げてみました。

### ◇視覚の活用

話しことばの理解より、目で見えて理解する方が得意な人が多いため、実物・絵・写真など目で見えてわかる方法を利用しながら、伝えてみましょう。

### ◇予定やスケジュールを示す

見通しをたてるのが不得意なため、不安感を持つことがあります。いつ始まるか・いつ終わるか・次に何があるかをわかりやすい方法で示してみましょう。

### ◇禁止や制限をする場合の表現方法

「～してはダメ」と言うより「～しよう」「～しなさい」の方がわかりやすいです。

例えば ゴミを散らかしている場合  
×「散らかしちゃダメ」○「ごみはちり箱に入れようね」  
ドアを開けっ放しの場合  
×「開けっ放しにしたらダメでしょ」○「ドアは閉めようね」

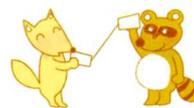
### ◇課題に集中できるための工夫

いろんな音が聞こえたり、いろんな物が目に入ると一つの物に集中できにくいので、環境も工夫してみましょう。

例えば、外の刺激に気が散ってしまう人には、外が見えないように机を配置したり、周りをついたてで囲ったりします。音が気になる時はヘッドホンを使う等。

### ◇相手の気持ちを読みとれない場合はその場で教える

例えば「あなた太っているね」とズバリ言ってしまった時  
×「失礼なことを言うもんじゃない！」  
○「太っているとされた人は嫌な気持ちになるね。」  
○「どうしても言いたい時はあとでそっとお母さんだけに言ってね」



### ◇話しかける時は、穏やかに・簡単明瞭に

大きな声で話したり、「～しちゃダメ」と怒鳴ると、話の内容がつかみにくく、不安や不安定につながってしまうことが多いです。

緊急の時以外は、穏やかに話しましょう。

また、長い文は理解しにくいので、なるべく短い文・わかりやすいことば・具体的なことばで話しましょう。

例えば

×「この本どうだった？」    ○「この本おもしろかった？」

×「どうしたの？」            ○「おなか痛いなの？」

### ◇指示する際の配慮

わかりやすく文字で書いて示したり、ポスターにして貼る等工夫しましょう。自分だけに指示されるのは苦痛なことがあります。例えば「Aくん手を洗いましょう」ではなくて「給食の前には手を洗いましょう」とクラスのみんなに提示すると受け入れやすくなります。

### ◇嫌なことをされたり、周りが困るようなことをした時は、それはよくないことだと穏やかにきっぱりと知らせましょう。

### ◇失敗をしてしまった時の対応

失敗をしてしまった時には、失敗をあまり責めないで、失敗の原因を考え、次に失敗しないためにはどうしたらいいかを考えましょう。

### ◇よりよい自己イメージの形成

不注意や多動のために叱責やいじめをうけ、「自分は何もできない」「駄目な人間だ」という自己不全感、劣等感が強くなるおそれがあります。

周りが障害の特性を理解して、本人がいろんな場面で誉められ体験・承認体験を積み重ね「人に認められている」「自分はいてもよい存在だ」という自己肯定感を作っていくようにしましょう。

良い行動をした時にはすかさず褒めてあげると、自信や、やる気が育ちます。得意な分野を認めて伸ばしたり、広げたりしてあげましょう。

### ◇ひとりひとりの発達の違いに対する理解・支援

基本的には、保護者・担任などが特徴を理解し、学習面の遅れ等が単なる怠けではなく、脳の機能障害からきているものと理解し、能力があるのに努力が足りないなどとプレッシャーをかけすぎないことです。

少し頑張ればできる課題を多く与え、自信をつけていくことも有効です。

具体的には、文章を読む時に単語や文節で区切ってみたり、読みたい文だけ見えるようにしてあげると読みやすくなります。聞いてほしい話は、名前を呼ぶなどして、注意をこちらに向けてから話すと聞きとりやすくなります。

支援の基本としては、個別指導プログラムで学習面の支援をすると共に、対人関係をより円滑に結べるようにするためのSST（ソーシャルスキルトレーニング・社会生活技能訓練）、ボディイメージの形成などが有効とされています。